

博 士 論 文 要 旨

題 目 育児不安・育児困難・虐待に悩む母親の
グループによる被サポート感と関連要因の検討
－愛着スタイルの違いからみた被サポート感の高いグループ構成－
Support by groups for mothers struggling with childcare anxiety, difficulties with
childcare, or child abuse, and the primary factors relating to this support
-The configuration of high-support groups seen in terms of differences in attachment style-

指導教授 西村 真実子 教授

入学年月 平成 18 年 4 月 入学

学籍番号 0607601

氏 名 東 雅代

緒言

近年、子育て支援の中にグループケアが多く取り入れられている。グループの凝集性を高める要因は、自我の強さの同質性と問題領域（抱えている疾患や症状等）の同質性であるとされている（Yalom, 1991）。しかし、育児不安・育児困難・虐待に悩む母親のグループでは、「イライラする」「子どもにあたってしまう」といった悩み、すなわち、問題領域は同質であっても、母親の自我の強さを象徴すると思われる「愛着スタイル(安心・安全・信頼の感覚・感情から生まれ発達していく自己と他者に対するイメージ)」の良好さは異なることが予想される。そこで、このような自我の強さの異なる対象が混在するグループにおいて、各々が、グループメンバーからのサポートを得ていると感じているのか、また、グループからサポートを得ていることと母親の育児困難感に関係があるのかを明らかにしたいと考えた。

グループによる被サポート感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討

Yalom の概念を参考に、7 下位尺度 30 項目の尺度を作成した。内容妥当性の検討は、育児不安や育児困難・虐待に悩む母親への支援の専門的見識が豊富な人 8 名に対し、尺度の各項目が 7 下位尺度のどれに属すると思うかを選択してもらい、項目の文章がそれぞれに位置づけられている下位尺度の概念を正確に表わしているかをみることにより行った。また、272 名に質問紙を送付し、得られた回答の因子分析と相関マトリックスの算出を行い、構成概念妥当性を検討した。さらに、抽出された因子ごとにクロンバックの α 係数を算出し、信頼性（内部一貫性）を検討した。

結果、調査対象者 5 人のうち 3 人以上が正解(各項目が属する下位尺度を選択)だった項目が 22 項目、2 人または 1 人しか正解しなかったものは、それぞれ 4 項目ずつであった。

また、有効回答 168 名（有効回答率 98.8%）について因子分析した結果、「グループメンバーへの安心と信頼」（ $\alpha = .957$ ）、「被受容による人間関係への自信」（ $\alpha = .923$ ）、「自己の内面の伝達可能性」（ $\alpha = .877$ ）の 3 因子が抽出され、高い信頼性係数を得た。4 項目が低い因子負荷量のため除外され、この中に、内容妥当性の低かった 2 項目が含まれた。本尺度は最終的に、3 下位尺度 26 項目とした。

グループによる被サポート感と関連要因の検討

目的

作成した尺度を用いて、育児不安・育児困難・虐待に悩む母親グループの被サポート感と、これに関連する要因と考えられる、成人愛着スタイル（関係不安・親密性回避）、う

つ傾向、育児困難感との関連を明らかにする。また、これらの要因のメンバー個々の違いからグループ構成を概観し、どのような構成においてグループの被サポート感が高いのかを明らかにする。

方法

親支援プログラム、ノーバディズパーフェクトを終了した 8 グループ、72 名に無記名の自記式質問紙調査を行った。一般他者に対する愛着スタイル尺度、ベックうつ尺度、グループによる被サポート感尺度、育児困難感尺度と、グループによるサポートに関連する要因として属性、グループ活動状況などを調査した。

結果

有効回答 53 名（有効回答率 95%）について分析し、関係不安得点と親密性回避得点が高い者ほど被サポート尺度の「グループメンバーへの安心と信頼」「被受容による人間関係への自信」の得点が低いことがわかった。

また、グループ毎の分析では、グループダイナミクスを考慮して、現在もグループ活動に参加している者が 3 名以上いるグループを分析の対象とした。その結果、5 グループ、29 名が分析対象となった。文献の関係不安の得点（酒井他，2007）の平均値を基準に、高得点群と低得点群に分けたところ、グループ全員が高得点の 3 グループと、高得点の人と低得点の人が混在する 2 グループに大別された。両グループの被サポート感尺度の下位尺度得点を比較した結果、「グループメンバーへの安心と信頼」「被受容による人間関係への自信」「自己の内面の伝達可能性」のいずれにおいても、前者の 3 グループに比べて後者の 2 グループの得点が有意に高く、高得点の人と低得点の人が混在するグループのメンバーの方がサポートされていると感じていた。また、関係不安の「平均値 + 1 SD 以上」の高得点の母親がグループに占める割合をみたところ、半数未満の 3 グループのメンバーが、半数以上属している 2 グループのメンバーより被サポート感を有意に感じていた。親密性回避得点、うつ得点で 2 分されたグループ間の被サポート得点には差がなかった。

グループによる被サポート得点と育児困難感(育児困難感 I:不安・困惑・不適格感、育児困難感 II:攻撃衝動性)の間には正の相関がみられ、育児困難を感じている場合でも、サポートされていると感じていた。

考察

1) グループによる被サポート感尺度

7 つの下位尺度を設定したが、因子分析では 3 因子となった。2 つの下位尺度と 4 つの下位尺度がまとまり、1 下位尺度がそのまま残ったが、類似性の高い内容を尋ねていた項目がまとまったと考えられる。

2) 育児不安・育児困難・虐待に悩む母親のグループによる被サポート感

育児不安・育児困難・虐待に悩む母親のグループでは、関係不安得点が平均よりも高めの愛着スタイルが比較的不良の人が集まるが、グループ構成としては、愛着スタイルの良好な人が少数混ざっている方が、グループのサポート力が高いことがわかった。また、関係不安得点が平均値 + 1 SD を越えるような、強い不安を持つ愛着スタイルが不良な人が、グループメンバーの半数以上になると、グループのサポート力が低くなると思われた。

結論

育児不安・育児困難・虐待に悩む母親のグループでは、メンバー個々の関係不安の強さがグループによるサポートに関係していた。関係不安得点が平均値より高い母親とそうでない母親が混在するグループのサポートが、全員が平均値より高いグループより高かったことから、関係不安がグループ支援を考える上での有効な指標といえた。また、作成した「グループによる被サポート感尺度」は研究での活用可能性がある。